

中高生が地域に防災を伝える実践

防災を通して、世代を越えて学び合う

中高生が「学ぶ側」から「伝える側」へ

防災マップづくりや地域活動で得た学びをもとに、中学生・高校生自身が防災について考え、地域の人に伝える活動を行っています。学んだ知識を誰かに伝える過程そのものを、重要な学びとして捉えています。

防災マップを地域へ

中高生が地域を歩いて調べ、地域の災害リスクや避難先などをまとめた防災マップを作成しました。初版・第2版を合わせて約6,000部を配布し、地域の方に活用していただける形で学びを届けています。

企業と連携した防災体験ブース

ホームセンターと連携し、中高生が防災体験ブースを企画・運営。非常用トイレ、防災用品、応急処置、停電時のあかりなど、身近な防災を体験できる内容を考え、来場者への説明まで主体的に行いました。

地域の子どもたち・住民との学び合い

中高生が地域の子どもたちや住民に防災を伝えることで、学校での学びを地域へ広げています。同時に、伝える相手の反応や質問から新たな気づきを得て、次の活動につなげています。

社会教育としての実践

防災を「教えること」だけを目的とせず、年齢や立場の異なる人が地域を題材に学び、互いの経験を生かして考える機会をつくります。子ども・若者の主体性を生かしながら、地域全体の学びへとつなげています。